

獨逸の食糧生産

("Germany's Food Production")
(The Statist, no. 2135 p.135 抄譯)

大森 研 造

歐洲大戰の終熄は一九一九年に於ける獨逸の食糧輸入に關する調査の開始を緊要ならしめたり、戰鬪の意思なき者をして故意に餓死せしむるが如きは吾人の欲せざる所なれば須らく獨逸に對して食糧輸入の門戸を開放せざるべからず茲に於てか一先づ獨逸國民に幾程の購入を許すべきか(一)今後不慮の事變に對する準備として穀物の貯藏を許すべきか(二)三次回の收穫期に至るまで實際の必要量に制限すべきか(三)第四の場合に於ける需要量果して如何等の問題を生ず。戰前に於て獨逸は多量の小麦、大麥、玉蜀黍、燕麥及油種等を輸入せしも、輸出品は僅かに甜菜糖、製肉、腸詰に過ぎざりしを以て觀れば食糧自給の途立たざりしや瞭にして開戦後輸入杜絶の結果(一九一五年以降)は從來の地位を一變せざる

可らざるに至れり。

由來獨逸は地味肥沃にして肥料豊富なり加之スカンデナビアより多量の窒素肥料を輸入して之を施用したるがため肥度著しく増加し土質加里性分を有する地方は馬鈴薯の收穫を増加し得べく又一方耕作地の擴張と他方牧場地積の減縮とは獨逸國民の食糧供給純額を増進せしめたり獨逸全面積の九割四分は耕耘に適し之を英本國の八割四分なるに比すれば大なる遲延あり、因に謂ふ全歐洲に於ける最沃土たる匈牙利は九割六分二厘にして最瘠土たる諸威は二割八分七厘なりと。

獨逸は一九一八年の後半迄豊饒なるアルサスローレンを領有せしが現在には然らず、且戰時中同國の農業に貢獻せし三百萬人の露國捕虜は漸次本國に復歸すべきが故に農業労働の不足を生じ食糧生産に著しき影響を來たすや論なし。開戦前(一九一四年七月)に於ける獨逸の状態は注目に値すべく左に簡單なる一表を以て之を示さん。

	輸入	輸出
小麦	一五五萬封度	五五萬封度
燕麥	四	二
大麦	三三	九
燕麥	三三	六
玉蜀黍	九	一
馬鈴薯	四二	一
亞麻仁	五	三

輸入品の大宗たる大麥は國內に於て三千三萬封度の收穫あるに拘はらず之と同額の輸入をなすは是れ麥酒の醸造に供せらるゝがためにし、尙馬鈴薯が五億一千萬封度の收穫あるに拘はらずその輸出額は僅かに三百萬封度にして却つて四百萬封度の輸入を仰ぐが如きは一方其大部が酒精其他化學用藥品として使用せらるゝと他方二千二百萬頭の豚の飼料に供せらるゝがためなり。

一九一九年に於て獨逸が若し麥酒の飲用を廢止し且馬鈴薯の全部を食料に充當すとせば——後の場合に於ては多くの豚を失はん——戦前の數字を基礎とするも尙且自給自足の途を講ずることを得べけん、又五百萬エーカーの牧場が耕

雜錄 獨逸の食糧生産

作せられ一エーカーに付き平均八千封度の穀物を生産すと假定せば全體につきては四百億封度の増加を見るべく而して開戦前に於ける食糧の純輸入額は六百二十億封度にして其内三百二十億封度は大麥なり、茲に於てか獨逸の食糧問題に關しては左に掲ぐる四方法の内何れかを選択することに依りて本年を無恙に經過し得べし、ふ結論に到着するものゝ如し即ち一約二百二十億封度の輸入を仰ぐか(二)麥酒の飲用を廢止して大麥の食用を勵行するか(三)家畜の飼養を半減して一方馬鈴薯の消費を輕減し他方牧場を開墾して穀物を栽培するか(四)全國民の穀物食用に對し二割の減食を斷行するかに在り。

乍併嚴重に封鎖せられし獨逸は恐らく新穀を穫るまでに家畜の大半を屠殺せざるべからざる運命に在り何となれば八月以前に於て製粉すべき何程の穀物をも有せず而かも馬鈴薯の收穫は十月以後なればなり。

賢明なる經濟論は獨逸が購入せんと欲し聯盟國が即時に賣却し得る食糧を以てこの危機を無

事に經過せしむるの最良策なるべきを示せり、但し聯盟國が此機に乗じて金鎊上の利益を獲得せんとし或は獨逸をして新收穫以上に法外の貯藏を許すが如きは策を得たるものと謂ふべからず。

獨逸と雖も一年に亘りて節約し得る食糧額を今後三箇月間に節約すべしと云ふが如きは到底實行し得ざる所なり。乍併獨逸も今秋に於ては一箇年の平時必要額に相當する新收穫を得べく従つて吾人が前述せし三經濟策の何れかを實行するに於ては其期間内國民を養ふことを得べけん。